

## 企画展 「どうぶつ百景」

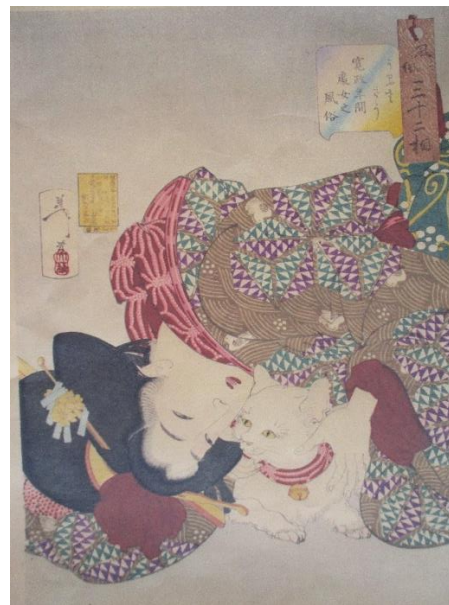
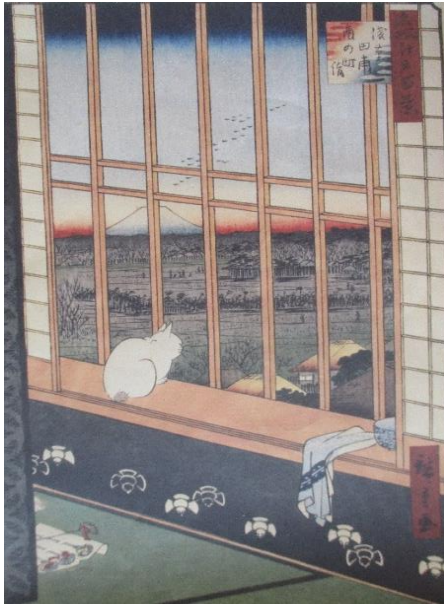
東京ステーションギャラリー 24.04.27~06.23 山梨、愛知、富山に巡回

江戸幕府創設から 400 年にもなる作今、過去において動物と人との関係はもつと縁の深いものであって、その姿はさまざまに表現されてきた。

将軍の都から帝都へ、人々は動物とどう変わってきたのであるのだろうか？

1603（慶長 8）年、江戸には幕府が置かれ町並が整備されると、江戸の街では人々が「猫」や「犬」を可愛いがるようになり、「兎」の飼育ブームが起り、町では「象」の見せ場が話題になって“人は動物と関わること”になった。

本展は、61 万点におよぶ「江戸東京博物館」の収蔵品の中から、江戸・東京における人と動物の関係を物語る美術品や工芸品など「約 240 件」を紹介するもので、「浮世絵」や「工芸品」「染織」などをテーマ毎に展示がされている。



歌川広重 《名所百景 浅草田甫西の町詣》

1857(安政4)年

月岡芳年 《風俗三十二相 うるささそう》

寛政年間処女之風俗 1888 年



《刺繍藤に猿図懐中たばこ入れ》

のうち「懐紙入れ」 江戸時代

デザインのモチーフにも取り入れられていて、精巧な工芸品や暖かみのある玩具などを目にする事ができる。